

ほうかつだより

安城市地域包括支援センターひがしばた 第17号 令和3年8月発行
住所:安城市東端町鴻ノ巣 72-2 電話:(0566)73-8210

令和3年度第1回地域ケア地区会議を開催しました

7月15日(木)に明祥プラザにて、令和3年度第1回地域ケア地区会議を開催しました。地域ケア地区会議は、住み慣れた地域で自分らしく最期まで生活できるよう介護、保健、医療、福祉、地域の関係者の多職種が集まり地域の課題について話し合う会議です。今回は「ひとり暮らしの見守りや支援について～一人で背負わない見守りや支援体制～」をテーマに43名の方にご出席いただきました。



コロナ禍のためグループワークはできませんでしたが、個人ワークとして事例を通して支援の方法を考えました。高齢者世帯から急にひとり暮らしになられた方が、生活の環境の変化から認知症が進んだり、不安が強くないようにサロンに誘ったり、見守りをしたりと早い段階で関わりを持つこと、一人で背負わないように支援体制として、ケアマネジャー⇔包括支援センター⇔社協⇔民生委員⇔町内福祉委員会との情報共有や連携が必要であることを学びました。

夏休み子ども向け 認知症サポーター養成講座を開催しました

7月31日(土)に明祥プラザにて、市内在住の小学生(3年生以上)とその家族を対象として夏休み子ども向け認知症サポーター養成講座を開催し、13名の方(小学生8名保護者5名)にご参加いただきました。認知症サポーターとは、認知症に関する正しい知識と理解をもち、地域や職域で認知症の人や家族に対してできる範囲で手助けをする人のことを言います。



キャラバンメイト(所定の研修を受講し講師役になる方)である安城市地域包括支援センターさとまちの水野様に講師を依頼し、「認知症とは?」「こんなときどうしたらいいの?」など分かりやすく説明していただきました。また、寸劇を通して認知症の方への対応方法を学んでいただきました。

参加いただいた方からは「認知症と物忘れの違いがわかった」「どんな対応をしたら良いかわかった」「親子で認知症のことを考える良い機会になった」等の感想をいただきました。受講後は、認知症サポーターの印であるオレンジリングをお渡ししました。

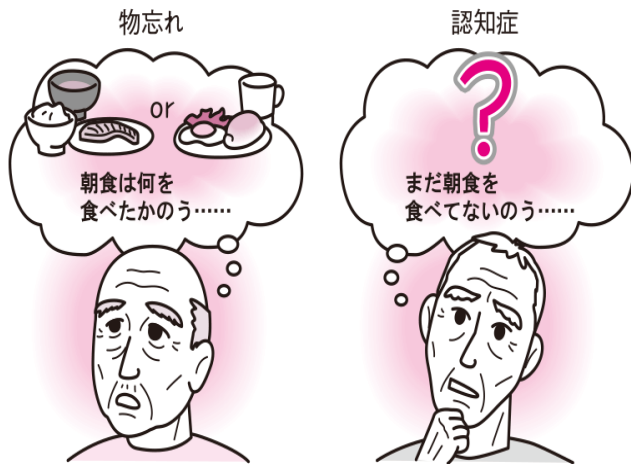


9月は「世界アルツハイマー月間」です

認知症への理解を勧めるために、

国際アルツハイマー病協会は9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定しています。

◆2025年までに、65歳以上の5人に1人が認知症になると言われています◆



誰でも年を取ると物忘れをするようになりますが、「年齢による物忘れ」と「病気による物忘れ（認知症）」は異なります。一連の行動の記憶が丸ごと抜け落ちてしまうのが「認知症」です。

例えば、前日の食事内容が思い出せないのは「年齢による物忘れ」ですが、食べたこと自体忘れてしまうのが「認知症」です。

両者を区別する最大のポイントは、社会生活や家庭生活上で支障が見られるか否かです。

認知症に気づくためのチェックシート

- もの忘れ(置き忘れ、しまい忘れ)が多くなってきた。
- 同じことを何回も聞いてくる、言っている。
- 今まで出来ていたことに対して確認することが多くなった。
- 最近、怒りっぽい。些細なことですぐに怒り出す。
- 意欲がなくなった。自分から何もしない。
- 「えっ！」と感じることが最近多くなってきた。



(参考:八千代病院 愛知県認知症疾患医療センターHP)

日常生活で上記のような出来事がいくつかみられるときは、認知症のサインかもしれません。気になる方はかかりつけ医や認知症相談機関に相談することをおすすめします。

<電話相談>

八千代病院愛知県認知症疾患医療センター 月～金 9時～16時30分 第2.4.5土 9時～12時30分	☎ 33-5556
安城市認知症初期集中支援チーム 月～金 8時30分～17時 第2.4.5土 8時30分～13時	☎ 97-7900
地域包括支援センターひがしばた 月～土 8時30分～17時30分	☎ 73-8210